

イ  
ン  
タ  
ビ  
ュ  
ー

デュエット  
— アジアン・  
コンテンポラリー —

Duet: Asian Contemporary

| 2F | 2026.9.30 (水) → 2027.1.17 (日)

出品作家  
村越としや  
ワン・トゥオ  
スイ・タカ  
ルオ・ヤン  
ジャン・ポンイー  
fumiko imano



1



2



3

同じ「風景」を扱っていても、村越としやは現在の社会と自分自身の関係から出発し、スイ・タカは長い歴史や中国の古典的な精神に向かっています。その対比がとても面白いと思います。

ワン・トゥオ（王拓）の作品は、また別の角度から歴史に向き合っています。彼は1980年代生まれの作家ですが、その思考は常に長い歴史の時間軸の中に置かれているように感じます。視野も一つの地域や時代に限定されず、東アジア全体を含む広い歴史的地図の中で作品を考えています。

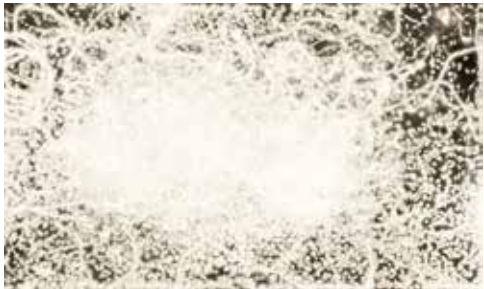
**伊藤** 村越としやの作品については、福島をはじめとする土地の記憶や時間を、長く写真を通して見つめてきた作家として紹介したいと考えました。今回は一つのシリーズだけではなく、これまでの仕事を振り返るような構成になります。

— ルオ・ヤン（罗洋）とfumiko imanoの作品の関係についてはいかがでしょうか。

**テン** ルオ・ヤンは2007年から《Girls》を撮り続けてきました。中国経済が大きく発展していく時期に、彼女は中国の若者、とりわけ若い女性たちの状態を見つめてきたと言えます。現在ではヨーロッパやアジア各地を移動しながら制作しており、その視線はZ世代や、社会の周縁に置かれがちな人々にも広がっています。

それに対して、fumiko imanoの作品はセルフ・ポートレイトを中心としています。ルオ・ヤンが大きな世代や時代の特徴を捉え、その中の個性を浮かび上がらせているとすれば、fumiko imanoは同じ時代の中で、作家自身のきわめて個人的な部分を提示しているように思います。

**伊藤** fumiko imanoの今回のシリーズは、コロナ禍にパリへ行った際、隔離期間中にホテル



5

から出られない状況の中で制作されたものです。個人的なセルフ・ポートレイトでありながら、その背後に当時の社会状況が透けて見えてくるところが面白いと思います。

— ジャン・ポンイー（蒋鹏奕）の蛍を用いた作品についてはいかがでしょうか。

**テン** ジャン・ポンイーは、毎日ひとりでアトリエにこもり、自分の作品を少しずつ彫り出していく職人のような存在に見えます。今回展示されるシリーズは、暗い箱の中で蛍を露光させ、その一瞬一瞬の光をフィルムに痕跡として残したものです。蛍の光は求愛行動の一種であり、生命の最後に向かう光でもあります。ジャン・ポンイーはその光を化学反応として留めることで、愛や死、生命の痕跡について考えています。

— アジアの現代写真表現の動向については、どのように考えていますか。

**テン** 私の感覚では、アジアにおいて写真表現に関わる作家の数は非常に増えています。スマートフォンで制作する写真家も少なくありません。写真というメディアへのアクセスのハードルは低くなっています。その意味で、写真はかつての「書くこと」に近づいているように感じます。だからこそ、私が惹かれるのは、強い思考力を持った作品です。なぜその作家は写真を選ぶのか。その必然性が重要だと思います。

**伊藤** まったく同じことを感じています。なぜこの表現は写真でなければならないのか。さらに写真の中でも、なぜデジタルではなくフィルムなのか。形式だけでなくテーマも含めて、その

## INTERVIEW

東京都写真美術館では、中国と日本の現代写真・映像作品を紹介する展覧会「デュエット—アジアン・コンテンポラリー」を開催します。本展は、2018年の「愛について アジアン・コンテンポラリー」に続くシリーズ第2回目の展覧会であり、三影堂廈門撮影芸術中心\*エグゼクティブ・ディレクターのテン・チンユン（滕青云）氏との共同企画です。

「デュエット」とは、本来、二人で奏でる音楽形式を意味します。異なる声や旋律が互いに応答しながら一つの表現を生み出すように、本展では、中国と日本の作家たちによる写真・映像作品が同じ空間に並び、風景、歴史、身体、記憶、そして現在の社会をめぐる複数の視点が交差します。企画に携わったテン氏と東京都写真美術館の伊藤貴弘学芸員に、展覧会の成り立ち、出品作家の作品、そしてアジアにおける写真表現の現在について、お話を伺いました。

— まず、本展が生まれたきっかけについて教えてください。

**伊藤貴弘（以下、伊藤）** テンさんと初めてお会いしたのは、2019年の大邱フォトビエンナーレのシンポジウムでした。お互いにパネリストとして登壇し、それぞれ東京都写真美術館と三影堂の活動について紹介しました。その後、同年12月に連州国際写真祭を訪れ、中国の現代写真を視察できたことも、中国の写真表現への関心を深める大きなきっかけになりました。

写真史を振り返ると、日本と中国のあいだには早い段階から接点があります。19世紀には、イタリア生まれの写真家フェリーチェ・ベアトが両国を訪れました。一方で、中国の現代写真については、榮榮&映里（ロンロン&インリ）やバードヘッドなど、国際的に活躍する作家を中心に知ってはいたものの、今回の企画が改めて学ぶ機会となりました。

必然性を感じられる表現には強度があります。今回の出品作家は、中国と日本という異なる国の作家ですが、根底の写真に対する意識には共通するものがあると思います。

— 最後に、来館者にはどのように展覧会を見てほしいですか。

**テン** この展覧会に入る前に、できるだけ先入観を持たずに見ていただけたらと思います。特に中国の写真に対して、まだ十分に触れる機会がなかった方も多いかもしれません。だからこそ、あらかじめ持っているイメージや固定

— テン・チンユンさんは、三影堂でどのような活動をされてきたのでしょうか。

**テン・チンユン（以下、テン）** 私は2017年に三影堂廈門撮影芸術中心に入りました。最初の数年間は、北京の三影堂で開催された三影堂10周年記念の特別展「中国当代写真40年（1976-2017）」や、三影堂写真賞10周年に関連する企画に関わりました。いずれも、中国現代写真の流れを考える上で重要な経験でした。

また、三影堂廈門はジメイ×アルル国際写真祭の会場でもあり、フランスのアルル国際写真祭と連携しながら展覧会の実施にも携わってきました。

— 今回の展覧会タイトルは「デュエット」です。この言葉にはどのような意味を込めていますか。

**伊藤** 中国と日本の作家を紹介するという意味で、まず対話的な構造があります。展覧会の準備では、お互いに作家を提案し、意見を交換しながら作家を選んでいきました。その中で、作品を通じた対話が生まれるといいなと考えていました。

**テン** 「デュエット」というタイトルは、とても良いと思いました。異なる声部や楽器による演奏が、最終的には美しく重なり合い、一つの楽曲として響いていく。今回の展覧会でも、異なる背景や表現方法を持つ作家たちの作品が、それぞれ独立した声を持ちながら、展示空間で呼応しているように感じます。

— 出品作家の組み合わせについて、テンさんはどのように感じていますか。

**テン** 村越としやの作品は、主に福島第一原発事故後の故郷の風景を撮影したものであり、自分自身に深く関わる、とても今日的な問題を扱っています。一方、スイ・タカ（塔可）の作品は、中国の古典文化を手がかりに、かつて存在したとされる場所、あるいはすでに失われてしまった風景を探りながら制作されています。



6

観念をいったん手放し、自分自身を作品と作家に委ねるように見てほしいです。

（インタビュー：金 秋雨）

[1] 村越としや〈より深い静けさのために風は鳴う〉より 2016年 ゼラチン・シルバー・プリント 作家蔵 [2] スイ・タカ《Heaven Guards》〈Odes〉より 2024年 インクジェット・プリント 作家蔵 [3] ルオ・ヤン《San 2》〈Girls〉より 2026年 発色現像方式印画 作家蔵 [4] fumiko imano《seriously/paris/2021》〈le fumistol〉より 2021年 フォトモンタージュ（発色現像方式印画）作家蔵 ©fumiko imano [5] ジャン・ポンイー《Dark Addiction 29H19'06"》2013年 インクジェット・プリント 作家蔵 ©Jiang Pengyi, Courtesy of ShanghART Gallery [6] ワン・トゥオ《Smoke and Fire》2018年 シングルチャンネル4Kビデオ 作家蔵 Courtesy the artist and WHITE SPACE

サンエイドウ  
\*三影堂  
撮影芸術中心

国際的に活躍する写真家ユニット、榮榮&映里（ロンロン&インリ）によって2007年に北京で設立された三影堂撮影芸術中心は、写真のための複合施設として重要な役割を果たしてきました。2015年には福建省の廈門に新たな拠点がオープンし、中国の写真文化を国内外に発信する中心的な場となっています。

PROFILE | テン・チンユン（滕青云）

香港理工大学修士課程修了。三影堂廈門撮影芸術中心およびジメイ×アルル国際写真祭のエグゼクティブ・ディレクターを務める。写真芸術の領域で展覧会の企画に取り組み、国内外の大規模プロジェクトにおいて豊富な経験をもつ。2018年、世界のアーティストに開かれたプラットフォームとして、三影堂廈門の「無界（Unbounded）」プロジェクトを立ち上げ、統括している。同プロジェクトはこれまでに50を超える個展と6つのグループ展を開催し、イメージを核とする多様な芸術実践と交流を推進し続けている。

デュエット — アジアン・コンテンポラリー  
Duet: Asian Contemporary

2F 9.30 (水) → 2027.1.17 (日)

本展では、中国と日本の6名のアーティストによる写真・映像作品を紹介します。中国作家4名はいずれも日本の公立美術館で初めての紹介となり、日本作家2名も東京都写真美術館では初展示となります。国内外で活躍するアーティスト6名の多彩な写真・映像表現の響き合いを探ります。 企画協力: 榮榮&映里

関連イベントは当館ウェブサイトをご覧ください

| 観覧料 | 一般900円ほか 各種割引あり  
| 主催 | 東京都写真美術館 | 協力 | 三影堂撮影芸術中心 | 協賛 | 東京都写真美術館支援会員

EXHIBITION

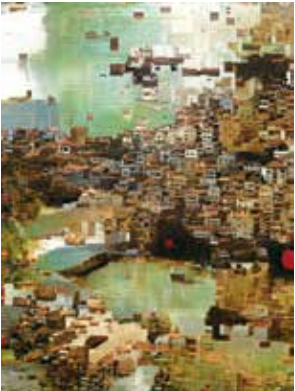
3F

2026  
9/30  
(水)

2027  
1/17  
(日)

ふたたびくみたてる  
日本の新進作家 vol.23

Assembling Anew: Memories, Materials, Context, Technology  
Contemporary Japanese Photography vol. 23



苅部太郎《あの海に見える岩を、弓で射よ  
#30》2022年 インクジェット・プリント  
作家蔵 ©Taro Karibe

東京都写真美術館では、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するとともに、新しい創造活動の展開の場として、2002年より継続的に「日本の新進作家」展を開催しています。第23回目となる本展では、作家たちが実際に存在した記憶や素材、技術、それぞれが持つコンテキストを汲み取り、新たなイメージへと組み立てていくプロセスに着目します。真偽に惑わされることの多い日常において、私たちは情報とどのように向き合い、何を信じ、どのように世界を捉えているのか。本展では、その問いを改めて考える契機となる作品を紹介します。

〈出品作家〉市田小百合、苅部太郎、野村在、橋本麦、藤倉麻子

|観覧料|一般700円 ほか 各種割引あり  
|主催|東京都写真美術館、東京新聞 |協賛|東京都写真美術館支援会員

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

2F

2027  
3/6  
(土)

2027  
6/6  
(日)

北野謙  
Kitano Ken



北野謙《香川県土庄町 小豆島 千年樹 2017年冬至-2018年夏至》〈光を集める〉より 2017-2018年 東京都写真美術館蔵  
|観覧料|一般800円 ほか 各種割引あり |主催|東京都写真美術館

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

現代写真家・北野謙の公立美術館で初めてとなる個展を開催します。北野は、国内および海外での写真展に参加し、写真でしかできない手法を通して人間の視覚を超えたヴィジョンを追求してきました。「超・長時間露光」とも言うべき極端に長いシャッター速度で写真撮影を行う作家として知られています。〈光を集める〉プロジェクト(2015-)では、日本、ハワイ、赤道直下のインドネシアや北極圏など、世界の各地にカメラを設置し、冬至から夏至まで、夏至から冬至までの6か月間、または一年間という「超・長時間露光」によって写真作品を制作するプロジェクトです。本展は、新作を含む同作品シリーズと代表作の展示によって、北野の作家活動の本質に迫ります。

フロムトップ 1F / CAFE



定番でご用意している、黒いチーズケーキ。ブラックココアを練り込んで焼いたしっとりコクのあるチーズケーキです。

黒いチーズケーキ 900円(税込)

[営業時間] 10:00 - 18:00 (木・金は20:00まで)  
[TEL] 070-8591-3730 [定休日] 美術館の休館日に準じます

HADITT  
BAITEN 2F / SHOP

展覧会の開催に合わせて、品揃えがガラリと変わるミュージアム・ショップ。TOPの収蔵作品を便箋に使ったレターセット。便箋の裏面は無地になっているため自由に書き込むことができます。ご来館記念にぜひ買い求めください。

支援会員

次の企業・団体のみなさまに東京都写真美術館の活動を支援会員様としてご支援いただいております。

- 特別賛助会員

キヤノン(株)  
全日本空輸(株)  
(株)ニコン

賛助会員

キヤノンマーケティング  
ジャパン(株)  
(株)資生堂  
大日本印刷(株)  
TOPPAN(株)  
富士フイルム(株)

特別支援会員

アイコニア・ホスピタリティ(株)  
アサヒグループホールディングス(株)  
サッポロ不動産開発(株)  
サッポロホールディングス(株)  
東急建設(株)  
ビクテ・ジャパン(株)

支援会員

あいおいニッセイ同和損害  
保険(株)  
(株)アイネスト  
アイング(株)  
アオイネオン(株)  
(株)アクト・テクニカルサポート  
(株)浅沼商会
- (株)朝日工業社  
朝日新聞社  
(株)朝日新聞出版  
朝日生命保険(相)  
(株)アフロ  
(株)アマナ  
(株)岩波書店  
(株)潮出版社  
(一財)AVCC・霞が関ナレッジ  
スクエア(KK<sup>2</sup>)  
(株)エージービー  
SMBC日興証券(株)  
SB C&S(株)  
(株)NHKエデュケーショナル  
(株)NHKエンタープライズ  
(株)NHK出版  
(株)NHKテクノロジーーズ  
エルメス財団  
大森クローム工業(株)  
OMデジタルソリューションズ(株)  
カールツァイス(株)  
花王(株)  
鹿島建設(株)  
カトーレック(株)  
(株)KADOKAWA  
神奈川新聞社  
カルチュア・コンビニエンス・  
クラブ(株)  
(株)企業変革創造  
(株)キクチ科学研究所  
(株)キタムラ

キッコーマン(株)  
(株)紀伊國屋書店  
ギャラリー小柳  
共同印刷(株)  
共同カイテック(株)  
(一社)共同通信社  
空港施設(株)  
(株)久米設計  
グローリー(株)  
(株)ケー・アンド・エル  
ゲッティイメージズジャパン(株)  
興亜硝子(株)  
(株)弘亜社  
(株)公栄社  
(株)廣済堂  
(株)講談社  
(株)光文社  
(株)国書刊行会  
(株)コスモスインターナショナル  
小山登美夫ギャラリー(株)  
佐川印刷(株)  
三愛オプリー(株)  
産経新聞社  
サントリーホールディングス(株)  
(株)ジェイアール東日本企画  
(株)JTB  
(株)シグマ  
(株)時事通信社  
(株)実業之日本社  
信濃毎日新聞社  
清水建設(株)

(株)写真弘社  
写真の学校／東京写真学園  
チャンネル(同)  
(株)集英社  
シュッピン(株)  
(株)小学館  
松竹(株)  
信越化学工業(株)  
(株)新潮社  
(株)晋遊舎  
(株)スタジオエムジー  
(株)スタジオジブリ  
(株)SUBARU  
住友生命保険(相)  
(株)住友倉庫  
(株)生活の友社  
セイコグループ(株)  
双日(株)  
ソニー(株)  
損害保険ジャパン(株)  
第一生命保険(株)  
台新国際商業銀行  
大和証券(株)  
(有)タカ・インシギャラリー  
(株)高島屋  
(株)竹中工務店  
(株)タニタ  
(株)タムロン  
(株)中央公論新社  
中外製薬(株)  
(株)築地製作所
- T&Dフィナンシャル生命保険(株)  
(株)TBSテレビ  
(株)デサン  
(株)トータルメディア開発  
研究所  
(株)徳間書店  
戸田建設(株)  
(株)トロンマネージメント  
(株)ニコイイメージング  
ジャパン  
日油(株)  
日活(株)  
日機装(株)  
日光ケミカルズ(株)  
日本貨物航空(株)  
(株)日本デザインセンター  
日本ヒューム(株)  
(株)ニッポン放送  
日本レコードマネジメント(株)  
日本空港ビルデング(株)  
日本経済新聞社  
(株)日本広告社  
(公社)日本広告写真家協会  
日本写真印刷コミュニ  
ケーションズ(株)  
(公社)日本写真家協会  
(公社)日本写真協会  
日本写真芸術専門学校  
日本生命保険(相)  
日本大学芸術学部  
(株)日本ロレックス(株)  
野村證券(株)

(株)東北新社  
(株)東洋経済新報社  
(株)博報堂  
(株)博報堂プロダクツ  
(株)ハセガワエスティ  
(株)パラゴンホールディングス  
(株)バンダイナムコフィルム  
ワークス  
びあ(株)  
ビー・マックス(株)  
北海道 写真の町東川町  
(株)美術出版社  
(株)ビックカメラ  
平岩塗装(株)  
(株)ピラミッドフィルム  
(株)ファーストリテイリング  
(株)フェドラ  
(株)フォーカスシステムズ  
(株)フジテレビジョン  
(株)フジヤカメラ店  
芙蓉総合リース(株)  
(株)フレームマン  
プロフォト(株)  
(株)文化工房  
(株)文藝春秋  
北海道新聞社  
堀江車輛電装(株)  
本田技研工業(株)  
毎日新聞社  
丸善雄松堂(株)  
マルミ光機(株)  
(株)マンダム

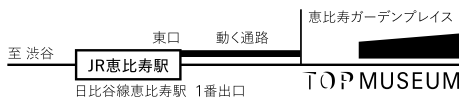
三井住友海上火災保険(株)  
三井倉庫ホールディングス(株)  
三井不動産(株)  
三菱製紙(株)  
三菱電機(株)  
明治安田生命保険(相)  
ヤマト運輸(株)  
(株)吉野工業所  
(株)ヨドバシカメラ  
読売新聞社  
ライオン(株)  
ライカカメラジャパン(株)  
(株)リビタ  
(株)良品計画  
(株)ロボット  
(株)ワコウ・ワークス・  
オブ・アート  
(株)ワコール  
※ほか2法人・1個人

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人、(一財)=一般財団法人

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
[TEL] 03-3280-0099   www.topmuseum.jp



東京都写真美術館

開館時間 10:00-18:00 (木・金は20:00まで) ※入館は閉館30分前まで  
休 館 日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始(12/28-1/1)

公式ウェブサイト



SCHEDULE

| 3F                                                       | 2F                                                     | B1F                                                                                                                                                                                                                 | 1F                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ふたたびくみたてる<br>日本の新進作家<br>vol.23 画<br>9.30(水)-2027.1.17(日) | デュエット<br>— アジアン・<br>コンテンポラリー 画<br>9.30(水)-2027.1.17(日) | TOKYOスマート・<br>カルチャー・プロジェクト<br>奈良女子大学 長谷研究室<br>「複製される感性<br>— 森山大道」画<br>9.5(土)-10.18(日)<br><br>木村伊兵衛写真賞<br>第50回記念写真展 画<br>10.31(土)-11.23(月・祝)<br><br>岡田 敦 幻の馬<br>Yururi Island<br>1950-2026 画<br>12.1(火)-2027.1.17(日) | 1F上映および展覧会の<br>最新情報はこちら<br><br><br><br>東京都内の美術館・<br>博物館等を<br>お得に見られる<br>「ぐるっとバス」<br>▼詳細はこちら▼<br><br> |
| 3階展示室のみ<br>2.5(金)-3.22(月・振)                              | 恵比寿映像祭 2027<br>北野謙 画<br>3.6(土)-6.6(日)                  | 2.5(金)-2.21(日)<br><br>APAアワード2027展 画<br>2.27(土)-3.14(日)                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 画 企画展 収 収蔵展 誘 誘致展                                        |                                                        |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                            |

NEWS

インクルーシブプログラム「手話を交えたQ&Aショー」  
[手話通訳・文字表示支援付き]

耳の聞こえない鑑賞案内人の小笠原新也さんが「デュエット—アジアン・コンテンポラリー」展について、担当学芸員に独自の視点からするどく質問する、トークショーならぬ「Q&Aショー」です。鑑賞の前でも後でも、展覧会の新たな見方を発見する場に、ぜひご参加ください。

[開催日時] 2026年12月12日(土)14:00-15:00  
[会場] 2Fロビー [料金] 無料 どなたでもご参加いただけます



毎月開催！オール・ウェルカム・デー  
(TOPボランティアによる鑑賞サポート)

障害等にかかわらず、どなたでも安心して美術館を楽しめるよう、ボランティアが鑑賞のサポートをします。お子様連れや当館が初めての方も“ウェルカム”です。ご利用方法や年間スケジュールは公式ウェブサイトをご覧ください。

詳細はこちら▼



図書室 4F / LIBRARY

図書室では、司書による選書サービス「どの しゃしんが みたいかな」を通年で実施しています。「せかいいさん」「どうぶつ」「でんしゃ」など、見たい写真のカードを選び、カウンターにお持ちください。おすすめの写真集を選書します。お気軽にお立ち寄りください。



[開室時間] 10:00-18:00  
[休 室 日] 美術館の休館日、特別整理期間等

(令和8年8月現在・五十音順)

--- 支援会員入会お申込先 ---  
東京都写真美術館支援会員事務局  
[TEL] 03-3280-0032

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場をご利用ください。

東京都写真美術館ニュース「アイズ」126号 □発行日:2026年9月24日 □企画・編集:東京都写真美術館管理課企画広報係 □印刷・製本:株式会社八紘美術 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2026 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、消費税込みの価格です。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はウェブサイトをご覧ください。